

全体討論

神田：今の話と重複する部分があるのですが、研究所によって、国の事業を受けている研究所がありますね、極地研が関わっている南極観測事業は国の事業なのですが、それを請け負っていろいろな仕事をする時にいくつかの問題が起こります。おそらく天文台のすばるなどもそうだと思います。そういった研究所は私的な資料と公的な資料の区別をつけるのは難しい事があります。たとえば、国の事業を請け負っている研究には著作権などの問題があります。たとえば南極観測の場合は国の事業として行ったわけですからすべての写真、日記、スケッチに至るまで国のものであると考えられます（だからこそ、今日まで資料が収集され、保管されている事もあります）。出発前から十分な説明があり、帰国後はすべて国のものになるので、個人の所有や扱いはできないような事です。よく考えるとそういったことには著作権や肖像権等のいろいろな問題が絡んでおり、本来は個人というものを尊重して扱わなければならない事もあるはずで、普通は国の事業なのでそれはできない。たとえば、隊員から譲り受けた写真を使う場合、極地研の著作権ではあるが、個人名をどこまで入れるのかといった問題にわれわれは日頃から気にはしております。すばるをはじめ、国の事業を行われているほかの研究所ではいかがでしょうか。

野口：今すばるとおっしゃったので...（笑）すばるの方も大変悩ましいところ。新聞社やマスコミ関係からこういった画像はないのかという問い合わせがきますが、著作権で問題のありそうなものについては、簡単には公開できません。明らかに天文台職員が撮ったとわかっているものについては用途を明らかにし、撮影者

全体討論

の了解を得た上で使用してもらってはおりますが、国立天文台一般でそういったルールがあるわけではございません。すばるに閉じないで、天文台全体として考えていただかないと困る場合もできます。多少とも商用利用に近い場合や社会的に影響がある場合、ケースによっては文部科学省の事務へ問い合わせが必要と思われることもあります。それぞれの件毎に、その場の判断でいろいろな方に相談いたします。天文台には”情報センター”があってそこが窓口になって対応してはおりますが、そこでもルール作りが十分では無いので、事例毎に処理しています。ある時台長まで相談がいったのですが、逆に”現場では今までどうやってきたのか？”と台長から訊ねられてしまいました。非常に悩ましい問題なのですが、基本的には出所がはっきりしているものしか公開はしないというスタンスにあります。

また、さきほど西村先生が撮られた写真についてのお話に追加させて頂きたいのですが、天文台では写真画像をデジタルデータとしてCDにプレスして多くの方々に利用してもらっており、配布もしていますが、天文台としては、お使いになる場合にクレジットとして『撮影者名・国立天文台提供』といったように、表記をお願いしています。CD制作当時は著作権に対する認識があまり無かったのですが、今後は撮影者の協力と理解を得るためにも著作権への配慮が大事でしょう。著作権に詳しい方から見ると、まだまだ不備が多いと思います。

松岡：マンパワーが足りないといったことを議論しても仕方がないとは思いますが、生理研の報告に関してはうれしい誤算といった印象を持っています。そちらの方の計画はどういった感じですか？

小沼：来年度の終わりごろ（笑）。

村上：今のところ全然目星がたっておりません。まずは設立に汗をかかれたOBの方々にお願いする。そして進行に応じて教授会に「これは重要な仕事ですよ」と働きかけ続けることを考えております。

平田：よその研究所の事を報告して、うちは負けていますよ、と言ったらどうですか？(笑)

松岡：そういったことについて各機関のアーカイブスがどういう状況下にあるのかといったことを簡単にまとめたパンフレットのようなものを作り、うちは遅れていますと言って上層部をつつく、といった作戦を今年度中にどうにかしたいと考えております。それを活用していただいて、「あそこは進んでいるのに、うちはよろしいのですか」というように話を持って行っていただければと思います。

小沼：新しく作るのですか？

松岡：各基盤のものを束ねて、うちのパンフレットはまだこの中に入っていない、などと言って。

難波：核融合研でパンフレットを活用しようとする、KEKではこんなにすすんでいますよ、といったものでなければならない。反対に、KEKで使うとすると、核融合研ではこんなにすすんでいません、といったものでなくてはならない(笑)。

関本：実際に、「EADに関して(のものなど)は核融合研がこんなにすすんでいるのにKEKはまだまだできていません」、といった感じですね(笑)。

野口：核融合研が一番すすんでいるので、核融合研にとってはあまりメリットはないかもしれませんが(笑)。天文台には正式な資料室がないので、他の共同利用機関ではアーカイブズに対しての認識が進んでいる事を天文台の人々に知ってもらうためにパンフレットを配る事に効果があると思います。効果をあげるには、少しでもきれいなものを作る必要があると思います。みすばらしいものだと、「ああこの程度か」と思われてしまうでしょう。資料を大切に扱っていることを理解してもらえば、OBの方々に「資料をぜひ預らせて頂きたい」と堂々と言える事になるでしょう。

全体討論

平田：ISAS など、宇宙研では予算として3000万円くらい出していますなどといったことも出せますか？何が何でも核融合研が一番というわけではなく、そういった情報も使えれば。

松岡：各基盤機関でそれぞれ特徴的な部分がありますから、そこら辺を補い合うべきであると思います。

関本：逆に、他はこの程度の予算でやっているのに、みたいな（笑）。

小沼：そういう目的ならば、共通資料といったことはあり得ないわけですね。ここでこれだけ勉強したのだから、よそはこれだけすすんでいてこちらはこれだけマイナスであるといったことを別々に宣伝する材料にする、といったことではないでしょうか。

平田：あとは小沼先生のような外部の方から上層部へ何とかの資料はあるか、と問い合わせしてもらい、無いとはけしからん、といったような、裏から手をまわす、ということもいかがでしょう。

村上：医学・生物系の研究所には個別研究やスモールグループが多く、研究所としてなかなか一本のプロジェクトとしては成立しにくいといった傾向があります。ただ、組織的に大型装置として超高压電子顕微鏡や高磁場磁気共鳴画像解析装置を購入し一時的には集まってくるのですが、今ですと機能的MRIが普通になってきており、そのうちまた拡散していくのです。そのくりかえしになっておりますので、全体的にまとまりにくくなっているのは確かです。各グループの資料というものは個別のグループで集めていってらっしゃるとは思いますが、それを全体としてうまく束ねていくといったことが必要となってくると思います。